

Cure to Care

第三話

與儀 達朗

【登場人物】第三話

町田 翼（32）： 救急・訪問診療医

鈴木 舞（30）： 訪問看護師

村井 正和（50）： 訪問診療所院長

五十嵐 隼人（28）： 訪問診療所職員

金城 恵（36）： 訪問診療所職員

山崎 香織（55）： 居宅ケアマネージャー

鈴木 健（52）： 外科部長

八木 直久（50）： 救命センター部長

我那覇 さくら（28）： 有料老人ホーム

花の看護師

金田 和子（85）： 在宅患者

金田 京子（50）： 和子の一人娘

金田 莉子（17）： 和子の孫

松田 士郎（80）： 施設患者

小沢 豊（60）： 施設患者の長男

新井（29）： 町田の後輩の救急医

山田（29）： 町田の後輩の救急医

島崎（30）：町田の後輩の救急医

覚知（60）：居酒屋店主

石川（22）：喫茶店の店員

介護員A（35）：有料老人ホーム花職員

利用者A（78）：デイスタービス利用者

入所者A（80）：有料老人ホーム花入所者

入所者B（85）：有料老人ホーム花入所者

小学生A（6）：金田宅前の学童児

小学生B（6）：金田宅前の学童児

【あらすじ】（第三話）

村井の診療に同行しながら、ケアマネ山崎とも出会い訪問診療の仕事を覚えていく町田。遂に町田は、主治医として初めての患者を持つことになる。町田が持った金田は脳梗塞後遺症で嚥下機能が廃絶し、胃管から経管栄養を投与されていた。延命行為という考えを抱きながら、村井に主治医として翌日の人生会議に出るよう言われた町田は自信をのぞかせる。

人生会議当日、経管栄養を延命行為と考えていた町田は、娘である京子に中止を提案する。しかし、京子は経管栄養の継続を強く望み、両者に意見の相違が生じたことを発端に、心証を害してしまう。

町田と京子の話し合いに同席していた金城から一部始終を聞いていた村井は、患者の人生観や思いをもっと知るべきだと町田にアドバイスを送る。

山崎に紹介された金田の孫である莉子との

出会いをきっかけに、町田は金田の人生観や京子の思いを知っていく。訪問看護師の舞から、金田が胃管の自己抜去をした事を知らされた町田は、改めて「人生会議」のために金田宅に向かうのだった。

第三話 「人生会議」

○町田宅・居間（朝）

外で小鳥のさえずりが鳴いている。
ベッドで布団を被り寝ている町田。スマホの目覚ましのアラームが鳴る。スマホに手を伸ばし、スマホの画面を見た町田薫（32）はアラームを消す。やや眠そうな顔で起き上がり、洗面台へ向かう。

○同・洗面台（朝）

洗面台で歯磨きを終わり、居間に移動する町田。

○同・居間（朝）

クローゼットを開け、着替え始める町田。居間のテレビ台の上には花束を持って笑顔の町田と八木直久（50）を中心、新井（29）、山田（29）、島崎（30）が笑顔で町田を囲んでい

る集合写真が置いてある。

○住宅街・通り（朝）

やや緊張の面持ちだが、真っ直ぐ前を
向きながら歩いている町田。

○村井訪問診療所・玄関前（朝）

「村井訪問診療所」と書いてある古い看
板の前で立ち止まって一息をつき、玄
関前に進み、呼び鈴を鳴らす町田。

金城恵（36）（声）「はい、村井訪問診療
所です」

玄関の扉を開ける金城。

金城「おはよう、町田先生」

町田「おはようございます、金城さん。今日
からよろしくお願いします」

頭を下げる町田。

金城「よろしく、さあ入って」

扉を開けて町田を中に入れる金城。中
にはいる町田。

○村井訪問診療所・オフィス（朝）

やや緊張の面持ちで、テーブルから少し離れたところで立っている町田。町田をみる金城。

金城「先生の席こっちだから、どうぞ」

町田に手のひらで、椅子を示す。

町田「ありがとうございます」

金城に対して軽く会釈する町田。

村井正和（50）「おはよう」

オフィスへ村井が入ってくる。

町田を見る村井。

村井「町田先生、今日からよろしくね」

町田「村井院長、今日からよろしく願います。」「

頭を下げる町田。村井が優しく町田の

右肩を叩く。五十嵐隼人（28）が、

オフィスに入ってくる。

五十嵐「おはようございます、町田先生、今日からよろしく願います。」「

町田を見て、五十嵐は軽く会釈して二人の横を通り過ぎ、自身の椅子に座る。やや首回りが日焼けしている五十嵐。

○村井訪問診療所・オフィス（朝）

ミーティングで村井が話している姿を、町田、金城、五十嵐の三人が真剣な表情で聞いている。

村井「では、今日も一日よろしくお願いします」

座っている町田の方に目を向ける村井。

村井「初日の町田先生は、僕の診療に同行してくれるかな？」

町田「わかりました、よろしく願います」

○車内・後部座席（朝）

五十嵐が車を運転している。後部座席に座っている町田と村井。村井が町田に声をかける。

村井「町田先生、今日は訪問診療の一日の流

れ、雰囲気を感じるくらいで大丈夫だから」

村井「もちろん今日だけじゃなくて、暫くは僕の診療に付いて貰おうと思っている」

町田「ありがとうございます……」

少し緊張が解けた面持ちで村井を見て、軽く会釈する町田。数秒間沈黙が流れる。運転している五十嵐に村井が声をかける。

村井「五十嵐くん、そういえば昨日また何か釣ったの？」

五十嵐がバックミラーで、村井の方をみる。

五十嵐「釣りましたよ、真鯛」

やや得意げな表情の五十嵐。

村井「おお、すごいじゃん。なんか作ったの？」

五十嵐「カルパッチョ作りました」

村井が軽く笑う。

村井「そんなシャレたの作るの？五十嵐くん意外だったわ。俺は煮付け一択だなあ」

五十嵐がバックミラーで、村井と町田の方をみる。

五十嵐「何作るかは人それぞれですからね。

町田先生は釣りとかします？」

いきなり質問を振られて少し驚く町田。

町田「まあ、学生時代は……」

五十嵐がバックミラーで、町田の方をみる。

五十嵐「そうなんすね、もし休みあえば、今度行きましようよ」

○車・外観（朝）

車内で三人が盛り上がっている。

○有料老人ホーム花・外観（朝）

快晴の空。

広い駐車場に五十嵐は車を停める。

施設玄関前には花壇があり、様々な

花が植えられている。

玄関横に停まっている送迎車から、介

護員 A (36) が車椅子の利用者 A

(78) を降ろしている。

○車内・後部座席 (朝)

村井がカバンを持ち横目に町田を見る。

村井「町田先生、いこうか」

緊張していた町田の表情は少しずつ緩

んできており、村井を見てうなづく。

町田は後部座席の扉を開けて外に出る。

○有料老人ホーム花・玄関前 (朝)

玄関のインターホンを押す五十嵐。

村井が横に立っている町田の方を見る。

村井「訪問診療ってなんか自宅のイメージが

多かった？」

町田「正直そうですね……」

村井を見てうなづく町田。

村井「こういう施設に伺うこともあるんだ。

入所者にとってはここが家だからね」

玄関の扉が開いて、五十嵐、村井、町

田の三人は中に入っていく。

○同・玄関（朝）

施設看護師の我那覇さくら（28）が村井の姿をみて、近づいてくる。左手に施設入所者情報が載ったファイルを抱えている。

我那覇「よろしくお願いします、こっちです」
右手で村井、五十嵐、町田の三人を患者がいる居間へ誘導する

○同・居間（朝）

村井が座って膝をついて、車椅子に座っている入所者A（80）の聴診をしている。聴診を終えた村井は入所者Aの足元をみた後に立ち上がり、我那覇の方を振り返る。

村井「ちょっとむくみが出てそうだけど、体重とかは増えてない？」

我那覇「大丈夫です、酸素の値も変わらず夜

も眠れています」

村井の方を見る町田。

町田「利尿剤ですか？」

村井「そう。状態落ち着いているし今回は経

過観察にしましょう」

立ち上がり、町田の方に視線を向ける。

村井「高齢者はつい薬が増えがちで処方する

時は慎重にしているんだ」

町田「薬を飲むのも大変ですもんね……」

村井と町田が話している姿を見て我那

覇が右手で、五十嵐の袖を引っ張り

小声で話しかける。

我那覇「ねえ、隼人。あの村井先生の横にい

る人って？」

五十嵐「ああ、新しく入った町田先生……」

我那覇と五十嵐の会話が聞こえていた

のか、立って話をしている二人の方へ

近づく町田。

町田「はじめまして。村井訪問診療所に新し

く入りました医師の町田薫です」

我那覇に向けて町田が軽く会釈する。

頭を下げていている町田の姿を見て、何か

申し訳なさそうな表情になる我那覇。

我那覇「施設看護師の我那覇さくらです、よ

ろしくお願いします：：自己紹介が遅れて

すみません！」

町田に深く頭を下げる我那覇。

町田「いえいえ、こちらこそすみません」

村井が後ろからやってくる。

村井「町田先生は、前田救命センターで救急

医をしていたんだ」

我那覇「すごい：：」

我那覇は敬服した面持ちで町田の方を

見て、視線を五十嵐に移す。

我那覇「確か隼人も救命センターいたよね？」

五十嵐「そう。でもおれは救命士で町田先生

は医者だよ：：」

我那覇「そんなこと分かってるよ」

五十嵐を軽く小突く我那覇。

数秒間の沈黙が流れた後に、我那覇が

はっと思ひ出したような表情をする。

我那覇「村井先生、松田さんが発熱してて

痰の量も増えています……」

村井「見に行こうか、上かな？」

我那覇「部屋で休ませてます」

我那覇が村井を誘導する。村井の後に
ついていく五十嵐と町田。

○同・個室（朝）

ベッドで酸素カニユレをつけられて
痰が絡んだ咳をして松田士郎（80）
が苦しそうに寝ている。村井が患者の
ベッドサイドに歩み寄る。

村井「松田さん、具合悪いみたいですね。ち

よっと診察しますね」

村井は聴診器を耳にあて、松田の聴診
を始める。心配そうな表情を浮かべて
村井の診察を見ている我那覇。

聴診を終える村井。

我那覇「先生どうですか？」

我那覇の方を見る村井。

村井「肺炎かもね。特指示を出すから施設で

抗生物質の点滴をお願いできる？」

我那覇「大丈夫です」

村井の後ろに立っていた町田が恐る恐る隣に立っている五十嵐に声をかける。

町田「五十嵐くん、特指示ってなに？」

五十嵐「あ、特指示っていうのは――」

町田と五十嵐の後ろから、山崎香織

(55)が五十嵐の言葉を遮る。

山崎「病状の急激な悪化などで、通常よりも頻繁な訪問看護の必要性が認められた緊急時に交付される指示書よ」

町田は後ろを振り返る。山崎の佇ま

いから貫禄を感じ取った町田は、やや

深く会釈する。町田の方を見る山崎。

山崎「あなたが、院長が言っていた町田先生？」

町田「よろしくお願いします、町田薫です。」

山崎は名刺入れから自身の名刺を出し

て、町田に渡す。町田が渡された名刺を見る。「介護支援専門員（ケアマネージャー）山崎香織」と書かれている。

山崎「ケアマネの山崎香織よ。町田先生、よろしくね」

我那覇が点滴を取って固定している。固定を確認した村井は立ち上がり、町田の方へ視線を向ける。

村井「山崎さんは、介護や支援がいる方達からお体や心の相談をうけて、医療や介護のサービスを調整している」

村井が町田の横に移動し、町田を手のひらで指し示す。

村井「山崎さん、前言っていたー」

山崎「町田先生でしょ？思ったより若いのね」

町田に顔を近づけまじまじと見る山崎。

町田は少し後ずさり、助けを求める様な表情で横にいる村井の顔を見る。苦
笑いを浮かべている村井。

山崎が今度は村井を見る。

山崎「そいえば、松田さんの状態はどんな感じなの？」

村井「中等度の肺炎ですかね。特指示で抗生物質の点滴で様子みようかと思います。肺の持病もないですし、数日で良くなると思います」

山崎「念の為、前とったACPを松田さん、家族と確認しておくわ」

T「ACP..もしもの時のために本人が望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取り組み」

村井「助かります、さすが山崎さんですね」

村井の肩をポンとたたく

山崎「普通よ」

山崎は個室の入り口に向かいかけるが、ふと思った様子で町田に近寄る。

山崎「町田先生、特指示について知らないなら勉強したほうが良いわよ。これから頑張

ってね」

町田のお尻を軽く叩く山崎。突然の出来事と予想より力が強かったことに、思わず声を出してしまう町田。

町田「う……」

山崎が個室から扉を開けて出ていく。苦笑いで山崎を見送る村井と五十嵐。

○車内・後部座席（昼）

五十嵐が車を運転している。後部座席に並んで座っている町田と村井。町田が村井に話しかける。

町田「そういえば、さっき山崎さんがA C Pを確認しておくって言ってましたけど……」

村井が町田の方をみる。

村井「そうだね。どうかした？」

町田「病院にいた時は、医者がやっていたような感覚があるので……」

村井が町田の発言が腑に落ちたような表情をする。

村井「町田先生はACPって一般的には何て呼ばれているかは知っている？」

町田「人生会議ですか？」

村井「そう」

村井が一息つく。

村井「町田先生は、人生会議で一番大事なことはなんだと思う？」

町田「それは……」

すぐに答えが出ない町田。

村井「僕は患者さんの人生観や思いを聞くことだと思う」

村井「訪問診療やっていると、患者の生活や人生に多くの人が関わっている」

村井「家族はもちろん、鈴木さんみたいな訪問看護師、山崎さんみたいなケアマネ。他にも訪問リハビリ、訪問薬剤師とか色々な人が関わっている」

町田は村井の話に注意を向けている。

村井「訪問診療の医者は原則、月に何回患者さんのところに行くと思う？」

町田「月に二回ですか？」

村井「そう。僕らは月2回しか会わない」

村井「僕らより鈴木さんや山崎さんが、患者

さんと会う機会が多い事だってある」

村井「町田先生は自分が患者だったら、二週

間に一回来る人と毎日来てくれる人、どっ

ちに自分の人生観や思いを伝えたい？」

町田「後者ですかね……」

村井「そういう感情になるよね」

うなづく町田。

村井「僕は患者さんから人生観や思いを聞く

のは必ずしも医者じゃなくて良いと思って

いる。それを元に治療を考えるのは僕らの

仕事だけだね」

村井を見つめている町田。

○前田救命救急センター・廊下

廊下を歩いている八木。前から外科部

長の鈴木健（52）が歩いてくる。鈴

木の白衣の下は白ワイシャツに黄色い

ネクタイのコーデとなっている。

軽く鈴木に会釈する八木。

八木「お疲れ様です」

鈴木「お疲れ様、今日も救命センターは忙し

そうだね……」

苦笑いの八木は再度鈴木に会釈する。

去ろうとする八木の後ろ姿に声をかけ

る鈴木。

鈴木「そいえば、町田先生退職されたって？」

八木は鈴木の方を振り返る。

八木「ええ。今は訪問診療の道に進んでいま

す」

鈴木「町田先生は救急医だよね？」

八木「そうです」

鈴木「ガン末期の患者とか彼が診れるの？」

鈴木が軽く笑っている。

八木「今は無理でしょうね……」

再度、鈴木に会釈して去っていく八木

の後ろ姿。去っていく八木を見ながら

鈴木が左の腰をさすっている。

○町田宅・居間（夜）

パソコンの前で座り、缶のお茶を飲みながらイーラーニングを受講している町田。

○緩和ケア研修会会場・外観

建物の外のみじが紅葉を迎えつつある。「緩和ケア研修会場」と書いてある看板が立っている。

○同・会議室

町田が座って真剣な表情で講習を受けている。時折メモをとっている。

○村井訪問診療所・オフィス

「緩和ケア研修会 修了証書」を村井に手渡す町田。笑顔で町田の方を見る村井。横にいる金城と五十嵐も祝福の表情を浮かべている。

○有料老人ホーム花・個室

町田が入所者（B）の胃瘻の交換をしている。無事交換し、横にいる村井と金城が町田をみてうなづく。

○同・会議室

町田が施設患者の長男である小沢豊（60）に「終末期医療に関する意思確認書」を手元に説明を始める。

町田「今まで人生会議ってしたことはありませんか？」

小沢「人生会議？そんな初めてだよ」

町田「お父さんのもしもの時のために治療方針を相談させてもらって良いですか？」

うなづく小沢。

町田「お父さんがもしお口から食べられなくなったら、延命治療を希望しますか？」

小沢「先生、延命はしなくていいよ」

町田「お父さんのためにもそれが良いと思

ます」

町田と小沢はそのまま話を進めていく。

村井はやや心配そうな表情を浮かべる。

○同・玄関前

歩いて車の方へ向かっている町田の後ろ姿に村井が声をかける。

村井「町田先生」

村井の方を振り返る町田。

村井「今日はスムーズに治療方針が決まったと思う。でも先生の面談には大事なことが抜け落ちている」

真剣な眼差しで町田を見つめる村井。

町田「大事なことですか？」

村井「そう。いつか分かる時が来るよ」
腑に落ちない町田。

○村井訪問診療所・玄関（夕）

一日の診療を終えた村井、金城、町田が玄関の扉を開けて入ってくる。

金城「ただいま」

五十嵐が玄関へ来て村井を見る。

五十嵐「お客さんが見えてます」

五十嵐が応接室のソファ―に座ってい

る客（山崎）の後ろ姿を手のひらで示

す。客（山崎）が玄関を振り返る。

山崎「私よ」

軽く山崎に会釈する村井。

村井「ああ、山崎さん」

山崎「ちょっと患者を紹介しようと思ってね、

今いい？」

村井「大丈夫です。町田先生、金城さんの物

品整理手伝ってもらっていい？」

町田「わかりました」

処置物品や点滴が入った段ボールを抱

えて、靴を履き替えて倉庫に向かって

いく町田。

○同・倉庫（夕）

処置物品を整理している町田と金城。

町田が金城に声をかける。

町田「山崎さんってすごいパワフルですよ

ね？」

金城「確かに」

町田「初めて会った時に、お尻叩かれたんで

すよ」

金城が笑っている。

金城「気に入られたんじゃない？」

町田「金城さん、冗談やめてくださいよ」

町田も軽く笑っている。

村井が倉庫に入ってくる。

村井「町田先生、ちょっといい？」

町田「大丈夫です」

○同・応接室（夕）

応接室のソファーに山崎が座っている。

村井に案内されてソファーに座る町田。

軽く山崎に会釈する。

村井「町田先生も僕の診療同行で程度慣れて

きた頃だと思うから……。この患者さんの

主治医をしてもらおうと思っている」

山崎が町田にファイルを渡す。ファイルを開く町田。

山崎「金田和子さん、85歳のおばあちゃん。

明日自宅へ退院してくる。脳梗塞を起こす

前から私の担当だった方よ」

ファイルを見ていた町田の手が止まる。

町田「胃管が入っているんですか？」

村井「金田さんは脳梗塞後遺症で残念ながら

嚥下機能が廃絶したと診断されて、胃

管から経管栄養をされている」

町田「でもこれって延命ですよね？」

村井「まあそういう見方にはなるよね」

山崎と顔を見合わせ、再度町田の方を

みる村井。

村井「明日自宅には、家族の他に山崎さんや

訪問看護師さんも集まる。主治医として人

生会議に参加してほしい」

町田「わかりました」

山崎「町田先生、私に何か聞きたいことはあ

る？」

町田「大丈夫です」

ファイルをみていた町田だが、顔をあげ
やや自信のありそうな表情で村井と山崎
の方を見る。

○金田宅・玄関前

曇り模様の空。

門の外では小学生A（6）と小学生B
（6）がシューズバッグの袋の引っ張
り合いをしている。玄関前にいる町田
と金城。金城がインターホンを押す。

金田京子（50）（声）「はい、金田です」

金城「村井訪問診療所です」

しばらくして玄関の扉が開く。京子が
立っている。町田と金城の姿を見て会
釈する京子。

京子「お待ちしていました、こちらへどうぞ」
二人を玄関に招き入れる京子。

○同・居間

ベッドには金田和子（85）が鼻管を
入れられて寝ている。

居間にはテーブルがあり、椅子には鈴
木舞（30）、山崎が座っている。

空いている椅子に促され、腰掛ける町
田と金城。町田の正面には京子が座る。

町田は京子に視線を向ける。

町田「はじめまして、村井訪問診療所からき
ました医師の町田薫と申します」

京子「よろしくお願ひします、娘の京子です」

町田「主治医として確認なんです、お母さ
んの和子さんは、脳梗塞を起こされて……」

町田と京子が話している。一旦会話が
終わって、一息つく町田。再度京子に
視線を向ける。

町田「京子さん、主治医として今日は、お母
さんの人生会議に来ました」

山崎が黙って聞いている。

町田「お母様は残念ながら嚥下機能が失われ

ていて、現在鼻の管から栄養が流れていて命を保っています」

京子は黙って町田の話聞いてる。

町田「ただ、鼻の管は本人にとって辛いことですし、いわゆる延命治療ではないかと考えてます……」

京子「先生はやめた方が良いということですか？」

京子の発言にうなづく町田。

京子「延命なのは私もわかってます。でも今の母は鼻の管なしでは生きられないということですよね？」

やや表情が曇り始める町田。

町田「現時点で栄養をとる方法は鼻の管以外にないのは事実です……」

京子「私は母に生きてほしいんです」

舞と金城が顔を見合わせて不安そうな表情を浮かべる。

町田「お気持ちはわかりますが……ご本人の負担を考えると、おすすりはでき……」

京子が町田の言葉を遮る。

京子「先生も前の病院のお医者さんと同じな
んですね、自宅に戻ったら何か変わると思
った私が甘かった。もう大丈夫です！」

京子の表情が怒りに満ちている。

山崎「京子さん、ごめんなさいね。こういう
厳しい話になってしまった。人生会議って
いうのは一回では決まらないから、何回か
また話し合いを重ねていかないかね」

京子「先生、もう帰ってください」

金城に目配せする山崎。金城がうなづ
いて、呆然と座っている町田の耳元で
ささやく。

金城「先生、いこう」

金城「京子さん、お邪魔しました、辛い思
いをさせてしまっただごめんなさい」

町田「失礼しました……」

金城と町田は一礼して退席する。

○金田宅・玄関前（昼）

玄関先に出てくる町田と金城。呆然と
している表情の町田。

金城「町田先生、今日は訪問予定ないけど、
どうする、家まで送っていく？」

町田「お気遣いありがとうございます、金城
さん。大丈夫です、自分で帰ります」

金城に軽く会釈して背を向けて歩き出
す町田。車のドアを開けたまま、立ち
去る町田の姿を心配そうに見送る金城。

○商店街・アーケード（夕）

重い足取りで歩いている町田。

ふと目をやると、成人式用の振袖レン
タルの看板が目にはまるが、気に留め
ず歩き続ける町田。

○村井訪問診療所・玄関（夕）

玄関の扉を開けて中に入る町田。

○同・オフィス（夕）

オフィスに入ってくる浮かない表情の

町田。

町田「お疲れ様です……院長まだ居たんです

ね……」

椅子に座って書類仕事をしている村井。

村井「書類仕事が終わらなくてね。町田先生

も遅くない？」

町田「こっちも書類仕事が終わらなくて……」

椅子に座って、書類仕事を始める町田

に視線を向ける村井。

○同・オフィス（夜）

作業をしている町田の机にコーヒーが

置かれる。村井が立っている。

町田「ありがとうございます」

村井「金城さんから色々聞いたよ」

町田「すみません……」

町田の肩を叩く村井。

町田「人生会議って難しいですね……」

町田の方をみる村井。

村井「初日に僕が話した、人生会議で大事な
ことって覚えている？」

町田が必死に思い出すような表情をし
ている。

○（回想はじめ）車内・後部座席

村井「町田先生は、人生会議で一番大事なこ
とはなんだと思う？」

町田「それは……」

すぐに答えが出ない町田。

村井「僕は患者さんの人生観や思いを聞くこ
とだと思う」

（回想終わり）

○村井訪問診療所・オフィス（夜）

村井「金田さんは意思疎通がとれないけど、
先生は娘さんから何か聞き出せたの？」

ハツとした表情を浮かべた町田をみる
村井。

村井「昨日患者さんと長い付き合いの山崎さ
んから何か聞こうとした？」

町田のデスクの上に置いてある資料を
抱えて自分のデスクに運ぶ村井。

町田「院長……」

村井「華金なんだから、飲みにも行ってきなさい、院長命令です」

軽く笑っている院長を町田が申し訳なさそうな表情で見ている。

○居酒屋・カウンター席（夜）

カウンターで一人焼酎の水割りを釈然としない表情で飲んでいる町田。居酒屋店の覚知（50）が町田の様子を見ている。焼きそばが目の前に置かれる。

覚知「はい、これサービス。なんか浮かない顔してるじゃない」

町田「ありがとうございます、まあいろいろとあって……」

居酒屋入り口の鈴の音が鳴る。

覚知が入口の方を見る。

覚知「いらっしやい」

山崎「華金だからパーっといかないとね」

山崎が一人で飲んでいる町田を見つけ、
町田の左隣に座る。町田が山崎の方を
見る。

町田「山崎さん……」

山崎「生で」

覚知が生ビールのジョッキを山崎の前
に置く。山崎は目の前に置かれたジ
ョッキを手に取り一気に飲み干す。

山崎「お酒足りないわ。なんせ長い付き合い
のお客さんに横槍いれたのだからね」

横にいる町田をじっと見つめる山崎。
苦笑いの覚知が、山崎の前に生ビール
のジョッキを置く。

町田「山崎さん、今日はすいませんでした」

町田の前に置かれた焼きそばを食べて
いる山崎だが、町田の方を見る。

山崎「何が、町田先生？」

○同・外観（夜）

新年会で盛り上がったっている店内。

○同・カウンター席（夜）

ビールを飲んでいる山崎。

町田「院長に気付かされました。あの時、患者の人生観や思いについて、俺は聞けていませんでした」

黙って聞いている山崎。

山崎「それで？」

町田「山崎さん、教えてください。金田さんの人生観とか思いとか……」

山崎が飲んでいたジョッキを机の上に置く。

山崎「甘い、甘ちゃんだよ」

町田「え……」

山崎が据わった目で町田を見ている。

山崎「先生が壊した世界、先生が一から直してみなさいよ」

山崎がポケットからメモを取って町田

の前に置く。メモを見る町田。

「十時 Luc e C a f e」と書か
れている。

○喫茶店・玄関（朝）

町田が喫茶店の扉を開けて中に入って
くる。町田が辺りを見渡す。店内にい
る山崎と目があう。山崎が合図を町田
に送っている。席に向かう町田。

○同・店内（朝）

席に座る町田。目の前には山崎の他に
金田莉子（17）が緊張の面持ちで座
っている。

町田「山崎さん、どうも。こちらの方は――」

山崎「金田さんのお孫さんよ。一昨日成人で
こっちに戻ってきたの」

町田が莉子の方に会釈する。

町田「おばあちゃんの主治医をしています、町
田と言います」

莉子が町田に会釈する。

莉子「お世話になってます、金田莉子です」

緊張で表情が固い町田と莉子の二人。

軽く笑う山崎。

山崎「お見合いじゃないんだから」

山崎がメモ用紙を、町田にさりげなく

渡す。町田がメモ用紙を見る。人生観

や思いについての質問項目がいくつか

書いてある。

町田が山崎の方を見るが、山崎は店員

の石川（22）を呼び止めている。石

川が席までやってくる。

山崎「先生、コーヒーでいい？」

町田「はい、ありがとうございます」

山崎が注文を石川に伝えている。

石川「かしこまりました」

石川が注文を取って去っていく。

○同・外観（朝）

やや曇りがかっていた天気徐徐に晴

れに向かっている。玄関のドアの上には、「L u c e C a f e」の表記が
されている。

○同・店内（朝）

町田が莉子と話している。

町田「おばあちゃんが何か大切にしていたこと
とってありますか？」

莉子「大切にしていたこと？」

町田「生きがいかですかね。これを目標に
生きていたとか？」

少し考えている莉子。顔を上げて町田
を見る。

莉子「おばあちゃんは……」

○金田宅・居間（朝）

舞が和子のケアをしている。和子が
苦悶様の表情で自らの手で胃管を抜去
してしまう。慌てる表情の舞。

舞「金田さん……」

○喫茶店・店内（朝）

莉子と話していた町田だが、机の上に置いていたスマホの着信が鳴る。「鈴木舞」の表記。

町田「ちよつとごめんね……」

席を外して電話に出る。電話で舞と話している町田の後ろ姿。通話が終わり、何か決心した表情で莉子の方を振り返る。

町田「莉子さん、今から自宅に戻りませんか？」

○金田宅・玄関（昼）

莉子が玄関を開ける。後ろには町田と山崎がいる。

莉子「ただいま」

玄関に来る京子。町田に気づく京子。町田はやや気まずそうな表情をしながら、京子に会釈する。

○ 同・居間（昼）

京子と莉子が向かい合って座っている。
いる。京子の斜め前に座っている町田。
舞、山崎も椅子に座っている。町田が
京子に向かって頭を下げる。

町田「この前は、人生会議と言って、お母さんの人生観や思いを聞けなくて申し訳ありませんでした」

京子が黙って聞いている。

町田「さっきまで、莉子さんから、お母さんについて聞いていました」

話を聞いていた京子が莉子を見る。

莉子も京子を見ている。

莉子「お母さんは三人でよく食事行ったのを覚えているでしょ？」

うなづく京子。

○（回想はじめ 5年前）レストラン

金田和子（80）、金田京子（45）、

金田莉子（12）が席に座りバイキング形式の料理を食べている。

莉子「おばあちゃんと会うと、美味しいものをいっぱい食べれるね」

嬉しそうな表情の莉子を見る京子。

和子「おばあちゃんは、こうしてお母さんと

莉子と三人で食事をしているのが幸せなの」

莉子「じゃあ、莉子がおばあちゃんの好きな

ものとしてきてあげるよ、何がいい？」

和子「ショートケーキがいいかな」

莉子「わかった」

料理を取りに席を離れる莉子。

京子の方を真剣な眼差しで見つめる

和子。

和子「京子、こうやって三人で食事しているのが私の生きがいなの。食べられなくなったら、それは生きていないと思う」

和子「でも莉子ちゃんの成人姿みるまでは、生きていたいのよね」

京子「お母さん……」

和子「ごめんね、つい変なこと言って」

和子が京子をみて笑っている。

席を離れていた莉子が見ている。

（回想終わり）

○同・居間（昼）

町田「お母さんは、孫の莉子さんの成人の姿をみるのが生きが이었다。でも食事が取れないという人生は許容できなかった……」

町田「京子さん、お母さんの思いから、胃管を続けるという決断は本当に辛かったと思います」

涙を流し始める京子。

一息ついて京子と莉子をみる町田。

町田「成人式は明日です。鼻の管が一日無いだけで、お母さんのお身体が明日どうなるということはありません」

町田「でも、お母さんに鼻の管を入れることはもう必要ないんじゃないですか？」

涙を流している京子が町田の方をチラ

りとみてうなづく。

○同・居間（夕）

成人式から帰ってきた振袖姿の莉子。

舞「莉子ちゃん本当素敵……」

少し恥ずかしそうな様子を見せる莉子。

莉子「ありがとうございます」

山崎「ほんと若いって羨ましいわ」

山崎は町田に見られているのに気づき、

噛みつきそうな表情で町田をみる。す

ぐに顔を逸らす町田。冷蔵庫からショ

ートケーキを取ってきて、町田の方

をみる莉子。

莉子「少しくらいならいいですか？」

優しくうなづく町田。

莉子は和子のベッドのそばに寄ってフ

ォークで小さくした、ケーキを和子の

口元に運ぶ。

莉子「おばあちゃん、おいしい？」

和子がケーキを租借し、表情が少し緩

んでいる。

莉子「莉子、今日成人式だったよ。振袖似合
ってるかな？」

和子の顔を見ている莉子。

和子の目から一筋の涙が流れる。

莉子「おばあちゃん辛かったね。莉子のため
に頑張ってくれてありがとう」

莉子が涙ぐんでいる。

涙を拭っている舞。

○同・玄関（夕）

玄関に立っている町田、舞、山崎。

町田「僕たちはこれで失礼します」

京子「本当にありがとうございます」

京子と莉子が頭を下げる。

ふと何かを思いついた表情をする山崎。

山崎「京子さん、せっかくなんで家族写真と
らせてもらってもいいですか？」

京子「山崎さん……」

山崎「三人見ていると、なんか幸せな気持ちに

なっっちゃって」

山崎の後に続いて居間に戻る町田、
舞の二人。

○同・居間（夕）

カメラマンの山崎がスマホで和子、
京子、莉子の三人の集合写真を取っ
ている。京子と莉子が町田の方を見
る。

京子「せっかくなので皆入ってください」
申し訳なさそうな表情を浮かべる

町田。

町田「せっかくの家族写真ですし……」

カメラマンの山崎が町田のお尻を
叩く。痛そうな表情の町田。

町田「お言葉に甘えて……」

和子の寝ているベッドの周りに町田
と舞が集まる。

山崎「笑ってね、はいチーズ」

カメラのシャッター音が鳴る。

○ 集合写真

胃管が抜かれた和子。京子、シヨート

ケーキを持った莉子、舞、町田が笑顔

で写っている。

（第四話へ続く）